

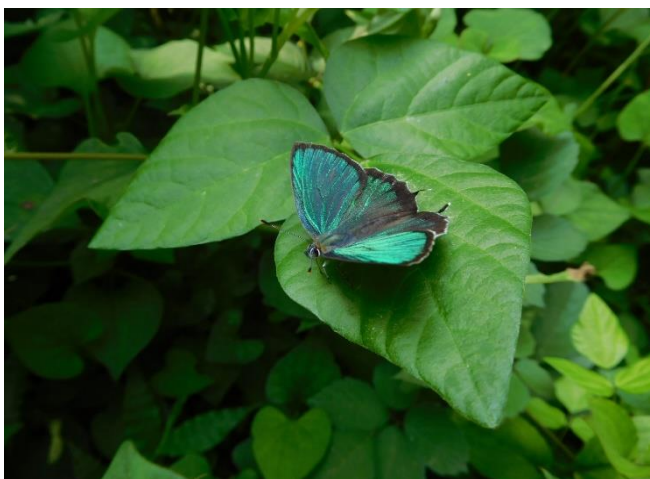
和名	分類	特徴ほか	会える場所			
			ハイム (中野島)	多摩川土手 (中野島周辺)	生田緑地	その他
ミドリシジミ	シジミチョウ科	ハンノキ林に暮らす蝶	X	X	○	ほぼ全国
成虫発生時期 (月)						
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12						
食草 ○ 食樹			発生回数/年		越冬形態	
ハンノキ			1		卵	



川崎市 6月17日 (2007年) ♂ 朝日を受けて輝く



川崎市 6月16日 (2007年) ♀ 橙と青の斑が出たA B型



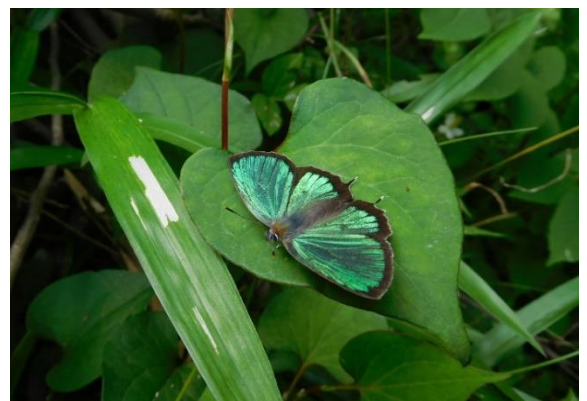
川崎市 6月11日 (2017年) ドクダミが咲く斜面

谷戸 (やと：谷間の湿地) のハンノキ林に生息しています。ハンノキは湿地に生えるため普通は足もとが悪くミドリシジミの姿を観察するのもままなりません。市内の緑地では遊歩道に助けられます。5月末から6月中旬に見られますが年によりばらつきがあり、傾向としては温暖化の影響が少しずつ早くなってきているようです。

オスは早朝から10時くらいまでと、夕方に活動します。金緑色のオスに比べるとメスは地味ですが、全体が濃灰色のO型、橙斑のA型、青斑のB型、橙+青斑のAB型と血液型のような遺伝タイプがあります。



川崎市 6月3日 (2019年) ♀ オスもメスも裏は地味



川崎市 6月11日 (2017年) ♂  
晴れた直射日光では金緑色系に光る  
(見る方向により、青⇒緑⇒金緑とかなり変わる)



川崎市 5月27日 (2018年) ♂ 曇っているとしっとりとした色に光る

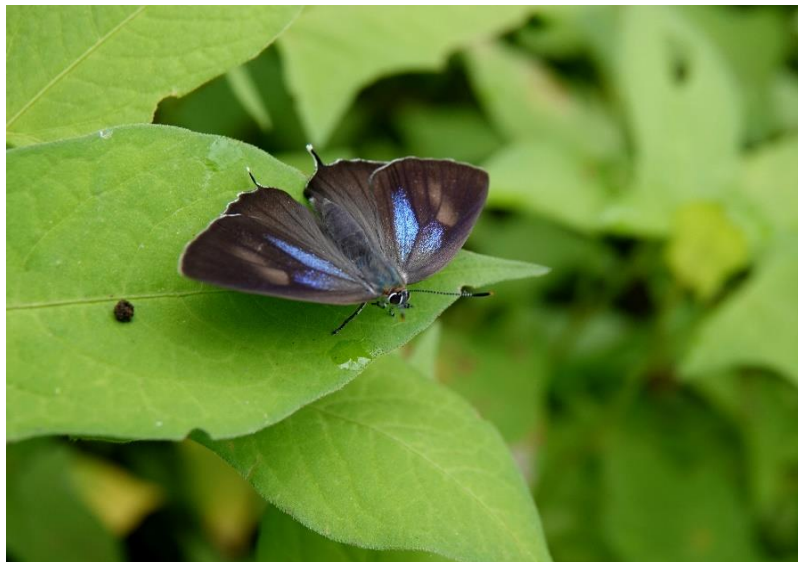


さいたま市 6月10日 (2020年) ♀ 青色斑が出たB型



←

さいたま市 6月9日 (2020年)  
羽化して下草を這い上がる途中で根元に落下、  
もがいているので助け上げたAB型の♀  
「骨折状態」で翅は完全には伸びなかった



↑

さいたま市 6月7日 (2022年)  
食樹ハンノキの林はいつもこのような湿地帯



↑ さいたま市 6月5日 (2023年)  
長靴も役に立たず浸水

↑

さいたま市 5月29日 (2021年)  
AB型の♀がきれいに開翅してくれた

川崎市 6月20日(2022年)  
極めて少なくなった川崎市内の  
緑地公園で

↓



↓↓ さいたま市 6月13日 (2022年)  
天候に恵まれ運がいいと・・・





↑ 長野県松本市 7月21日（2022年） 北アルプス麓の大湿原。羽化後、一飛びしてササの葉上で翅を乾かしているような雰囲気、長い間くるくると回転しながらいろいろなポーズを見せてくれた。

↓ 見る方向によって微妙に変わる構造色

